

平成25年度上水道事業会計当初予算(案)の概要

I 予算のすがた

収益的支出と資本的支出を合わせた予算総額は、1,172億49百万円となり、前年度に比べ、4億30百万円、0.4%の増加となっています。

収益的収入が前年度に比べ15億90百万円減の714億6百万円に対して、収益的支出が前年度に比べ11億20百万円減の674億44百万円であり、その結果、純利益は、26億15百万円となりました。

(単位:百万円)(税込み)

区 分	25年度 当初予算案 ①	24年度 当初予算額 ②	対前年度比較		備 考	
			増減額 (①-②)③	比 率 ③/②		
収 益 的 収 支	収益的収入	71,406	72,996	△1,590	△2.2 %	給水収益 63,760
	収益的支出	67,444	68,564	△1,120	△1.6 %	給水申込納付金 3,977
	収支差益	3,962	4,432	△ 470	△10.6 %	人件費 7,129
	消費税資本的 収支調整額等	△1,347	△1,205	△ 142	11.8 %	減価償却費 21,470
	純利益	2,615	3,227	△ 612	△19.0 %	支払利息 4,125
資 本 的 収 支	資本的収入	15,436	12,403	3,033	24.5 %	企業債 6,000
	資本的支出	49,805	48,255	1,550	3.2 %	国庫補助金 425
	収支差	△ 34,369	△ 35,852	1,483	△4.1 %	有価証券償還受入金 4,998
支出予算総額	117,249	116,819	430	0.4 %	建設事業費 31,925	
						企業債償還金 11,940

※資本的収支における34,369百万円の不足額は、消費税資本的収支調整額1,347百万円、過年度及び当年度損益勘定留保資金(減価償却費など)33,022百万円で補てんします。

[企業債残高の状況]

平成25年度末の企業債残高は、前年度に比べ59億40百万円減少し、1,794億35百万円となる見込みです。

(単位:百万円)

24年度末残高見込 A	25年度当初予算案			25年度末残高見込 A+D
	借入額 B	償還額 C	差引 D=B-C	
185,375	6,000	11,940	△5,940	179,435

II 主要事業の概要

中期経営計画 2011(計画期間:23~27年度)に掲げた5つの基本目標に沿って事業を推進します。

基本目標1 安全で良質なおいしい水をいつでも供給できる水道

◎ダム建設事業に係る分担金	10億62百万円
○八ッ場ダム	10億62百万円
工期：昭和42年度から平成27年度 建設事業の当局負担率3.3%	
◎高度浄水処理システムの導入	2億74百万円
○柏井浄水場西側高度浄水処理施設に係る設計等	2億47百万円
○栗山浄水場施設更新(ちば野菊の里浄水場整備)に係る計画策定【新規】	27百万円
◎浄・給水場の設備等の更新	81億27百万円
○北総浄水場特高受変電設備更新工事	7億56百万円
○北船橋給水場特高受変電・配電設備更新工事	2億85百万円
○福増浄水場オゾン発生設備改良工事	2億30百万円
○浄・給水場耐震補強工事(福増浄水場、木下取水場ほか)	4億96百万円
○次亜塩素酸ナトリウム注入設備への転換工事	13億13百万円
液化塩素から転換(柏井浄水場東側、福増浄水場)	
◎管路の整備・耐震化	192億84百万円
○鋳鉄管更新工事	115億10百万円
更新時期を迎える配水管の増加に対応して、計画的に更新工事を実施し、耐震化を推進する。特に東日本大震災を踏まえ、湾岸埋立地区については、耐用年数にとらわれず重要施設へ給水している管路を中心に更新を行う。	
布設延長 71.8km	

○送配水施設建設工事 28億10百万円
安定給水確保のための管路の新設及びニュータウン事業の進展に伴う管路の新設を行う。

第二北総～成田線送水管布設事業（布設延長 2.1km:13 億 34 百万円）
千葉ニュータウン線（布設延長 6.7km:11 億 94 百万円）

○公共関連配水管整備工事 22億46百万円
外環道等の公共工事に際して支障となる既設管の移設等を行う。

外環道関連工事（布設延長 2.9km:8 億 10 百万円）
下水道等関連工事（布設延長 9.6km:14 億 9 百万円）

◎おいしい水づくりの推進 65百万円

○残留塩素の低減化 22百万円

平均0.4mg/l以下（27年度目標）を目指して低減化に取り組む。
塩素注入管理のためデータ収集と分析等を行う。

- ・連続測定装置による残留塩素濃度の測定 10百万円
- ・受水槽内塩素消費量実態調査 12百万円

○安全・安心・おいしい水づくりキャンペーン等 16百万円

- ・PRグッズ製作
- ・小学校等における水道出前講座
- ・ウォーターメイト（水質モニター）による蛇口水質モニタリング・意見交換

基本目標2 行き届いたサービスと高い技術力でお客様に奉仕する水道

○広報事業 54百万円

県水だよりの発行、ペットボトル水「ちばポタ」製造等

○体験型水道技術研修 2百万円

新規採用職員や他部局転入職員を対象に、仕切り弁操作、洗浄作業等の技術研修を実施する。

基本目標3 地震等の非常時にも強い水道

◎危機管理体制の強化

4億89百万円

○危機管理体制の整備事業

1億10百万円

東日本大震災時の教訓を踏まえ、給水車の増車や応急仮設給水栓の備蓄など応急給水体制を強化するとともに、復旧用資材の備蓄倉庫増設に係る設計委託等を行う。

○配水管理テレメータ整備事業

3億79百万円

震災時等において、迅速に被害地区を把握し、復旧が図れるよう、測定機器（水圧計、流量計）の更新整備を行う。

◎管路・施設の耐震化の推進

120億 6百万円

○铸铁管更新工事【再掲】

115億10百万円

○浄・給水場耐震補強工事（福増浄水場、木下取水場ほか）【再掲】

4億96百万円

基本目標4 環境に優しい水道

○浄水場発生土処理

5億84百万円

浄水工程において発生する汚泥を、セメント原材料や緑化培養土としてリサイクルする。

基本目標5 安定した経営を持続できる水道

○情報化の推進

20億13百万円

現在運用中の20の情報システムについて使用機器類の共通化・管理の一元化を推進し、業務能率向上及びコスト抑制を図る。